

# 投稿論文を書くために必要なこと

国際教育交流センター教授 庵 功雄

[isaoiori@courante.plala.or.jp](mailto:isaoiori@courante.plala.or.jp)

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

# 1. 投稿論文とは

- 投稿論文は、査読を受ける論文である
- →査読に通らなければ、雑誌に掲載されない
- →査読に通るために必要なことを考える必要（cf. 庵2013）
- →今回は、形式面を中心に、注意すべき点について述べる

## 2. 査読について

- 査読は何のため？
- →外部評価を受けるとの重要性
- 査読はどのように行われる？
- →査読者も投稿者も匿名（匿名性の原則）

## 2. 査読について

- 査読は誰がする？
- →学会誌委員、査読協力者（学会誌の場合）；
- 教員、OB・OG（本誌の場合）
- 査読料はいくら？
- →0円
- →査読者が査読料を要求したら、学会は破産
- →査読はボランティア

## 2. 査読について

- 査読とは？
- →査読は、**ルールに基づいたゲーム**
- →査読者も、投稿者も、ルールを守らなければならない
- 査読者が守るべきこと
  - 内容に賛同できなくても、論旨が通っていれば、採用
  - する
  - 再査読で気がついたことは指摘しない

### 3. 投稿者が守るべきこと

- 査読者は忙しい
- →主張が読み取りやすいように書く
- →主張したい内容、なぜそのことが問題なのか、に当たるものを最初に書く
- Cf. 先行研究が延々と続く論文

### 3. 投稿者が守るべきこと

- 論文の採択率は（最大）20%台
- → 大部分の論文は採択されない
- → 「次点」を続けても採用にはならない
- → ボーダーラインでの競り合い
- → 「ミス」は避けるべき
- → 誤字、脱字をなくす
- → 誤字、脱字があったら、それだけで不採用になっても仕方がない

### 3. 投稿者が守るべきこと

- **クロスリファレンス**の重要性（J.V.ネウストプニー）
- ①本文で言及したら、参考文献に挙げる
- →参考文献にないと、何を引用したのか不明
- ②参考文献に挙げたら、本文で言及する
- →本文で言及することにより、投稿者がその論文の意味を理解しているかがわかる
- →野田（1996）

### 3. 投稿者が守るべきこと

- クロスリファレンスの重要性（J.V.ネウストプニー）
- 自分の論文も必ず引用する（←匿名性）
  - a. 拙論（2010）で述べたように、～ × ×
  - b. 田中（2010）で述べたように、～ ×
  - c. 田中（2010）で述べられているように、～ ○
- →筆者が言語的に特定されなければよい
- [http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2018/08/20180901\\_happyoyoryo.pdf](http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2018/08/20180901_happyoyoryo.pdf)  
（「引用文献の挙げ方」）

## 4. 論文を書くときに注意すべきこと

- 1. 分量を守る（1字でもオーバーしたら不採用）
- 2. 表や図の文字を小さくしすぎない
- 3. 表を「絵」として貼り付けない（どうしても必要な場合でも別にエクセルファイルを用意する）
- 4. グラフなどは、サイトから転用するのではなく、自分で作り直す（著作権、解像度の問題）
- →雑誌は、編集者が作り直すことが多い。その際に膨大な作業量になる

## 4. 論文を書くときに注意すべきこと

- 投稿する前に、他の人に読んでもらう
- ←自分の文章のどこがわかりにくいかは自分ではわからない
- ←ネイティブ・チェックを兼ねる（日本語母語話者でも「ネイティブ・チェック」は必要）
- →他の人に読んでもらって改稿した回数と、採択される確率の間には、強い正の相関がある（中俣尚己）

## 4. 論文を書くときに注意すべきこと

- 5. 要旨は最後に書く
- ←要旨を読めば、採否は大体わかる
- 6. 英文要旨はネイティブ・チェックを受ける
- ←英語として読んで意味がとれないものがある
- →「書き終わった」後に相当の時間がかかる

## 4. 論文を書くときに注意すべきこと

- 1次審査に通ったら（条件採用、修正再査読）
- →コメントに沿って修正稿を作る
- →修正箇所を記した「**修正報告書**」を書く

## 4. 論文を書くときに注意すべきこと

- 「修正報告書」の書き方
- 1. デス・マス体で書く
- 2. 修正箇所がわかるように書く
- 3. 修正の理由（コメントへの対応の仕方）がはっきりわかるように書く
- →原論文をいちいち参照しなくてもよいように書く（査読者への配慮）

## 4. 論文を書くときに注意すべきこと

- 採用が決まったら（採用）
- →雑誌に掲載する前に「**校正**」を行う

## 4. 論文を書くときに注意すべきこと

- 「校正」で注意すべきこと
- 著者による校正は原則として1回のみ
- 校正で直してよいのは、査読者から指摘された点と、誤植（誤字・脱字）のみであり、それ以外の部分は一切修正してはいけない
- ← 「修正採用に対するコメントの修正＋誤植の訂正」を経たものが「採用」の対象となっている

## 4. 論文を書くときに注意すべきこと

- 「校正」で注意すべきこと
- 「修正採用に対するコメントの修正＋誤植の訂正」を経たものが「採用」となっている
- ←編集委員会が責任を持つ内容
- →それ以外を修正した場合は、それだけで不採用になっても仕方がない
- →日本語文法学会などでは、最終稿について、学会誌委員が校正を行い、最終的には編集委員長が出張校正を行う
- ←査読はボランティア

# 参考文献

- 庵 功雄（2013）『日本語教育、日本語学の「次の一手」』くろしお出版
- 野田尚史（1996）『新日本語文法選書 1 「は」と「が」』くろしお出版